

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0862
 住 所 川崎市川崎区浮島町10-3
 氏 名 日本ブチル株式会社
 代表取締役常務取締役総支配人 橘高 賢治 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

| | | | |
|---------------------|---|---------|-------------------|
| 事業者の氏名 又は名称 | 日本ブチル株式会社 | | |
| 主たる事務所 又は事業所の所在地 | 川崎市川崎区浮島町10-3 | | |
| 該当する事業者 の要 | <input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者) | | |
| 主たる事業 の業種 | 大分類 | E | 製造業 |
| | 中分類 | 16 | 化学工業 |
| 主たる事業 の内容 | 合成ゴム製造業 | | |
| 事業者の規模 | <input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量 | 41,068 | k l |
| | <input type="checkbox"/> 自動車の台数 | | 台 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量 | 25,026 | t-CO ₂ |
| 連絡先 | 担当部署 | 担当部署名 | 環境保安課 |
| | | 所在地 | 川崎市川崎区浮島町10-3 |
| | | 電話番号 | 044-288-7355 |
| | | FAX番号 | 044-287-9045 |
| | | メールアドレス | |
| ※受付欄 | | ※特記事項 | ※事業者番号 |

(第2面)

| | |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 計画期間及び報告年度 | 平成25年度 ~ 平成27年度 (報告年度 平成27年度分) |
| 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量 | 別添 指針様式第2号のとおり |
| 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況 | 別添 指針様式第2号のとおり |
| 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況 | 別添 指針様式第2号のとおり |
| その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項 | 別添 指針様式第2号のとおり |
| 備考 | |

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

| | 基準年度 | 第1年度 | 第2年度 | 第3年度 | 目標排出量 |
|-----|--|--|--|--|-------------------------------|
| 排出量 | (実) 138,516 t-CO ₂ (調) 138,492 t-CO ₂ | (実) 105,026 t-CO ₂ (調) 105,001 t-CO ₂ | (実) 98,872 t-CO ₂ (調) 98,852 t-CO ₂ | (実) 103,627 t-CO ₂ (調) 103,602 t-CO ₂ | (実) 124,664 t-CO ₂ |
| 削減率 | | (実) 24.2 % (調) 24.2 % | (実) 28.6 % (調) 28.6 % | (実) 25.2 % (調) 25.2 % | (実) 10.0 % |

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

| 原単位の活動量 | 生産数量 | | 単位 | T-CO ₂ /kt | |
|----------|-------|--------|--------|-----------------------|--------|
| | 基準年度 | 第1年度 | 第2年度 | 第3年度 | 目標年度の値 |
| 排出原単位等の値 | 1,658 | 1,228 | 1,393 | 1,178 | 1,415 |
| 削減率 | | 25.9 % | 16.0 % | 29.0 % | 14.7 % |

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

| | |
|------|---|
| 第1年度 | 温室効果ガスを含む希釈剤の回収設備の運転最適化や温暖化ガスの蓄熱燃焼処理装置の停止時間の削減、照明灯更新時にLED灯の採用、コンベア非使用時に停止する回路の導入、蒸留塔の還流比低減によるリボイラー蒸気量の削減を行なった。また、平成25年度は希釈剤排出要因である定期修理がなかった。その結果、排出量は基準年の排出量から約24%減少し、原単位も約26%低下した。 |
| 第2年度 | 定期修理時の温室効果ガスを含む希釈剤の回収改善と排出抑制、希釈剤回収設備の設置、希釈剤回収設備の運転最適化、ガス分析頻度と時間の削減、蒸留塔の還流比低減によるリボイラー蒸気量の削減、冷却水ポンプの冬季一部停止、冷媒圧縮機の循環流量削減、LED灯への交換により、基準年の排出量から約29%減少した。また、原単位は定期修理に伴う生産減少で前年より増加したが、基準年より約16%減少した。 |
| 第3年度 | 温室効果ガスを含む希釈剤の排出要因である定期修理がなかったことに加え、照明灯更新時のLED灯採用、蒸留塔の還流比低減によるリボイラー蒸気量の削減、ドラムの加熱温度低下による蒸気量削減を行ったことで生産量に起因して発生する二酸化炭素を抑制した。その結果、基準年の排出量から約25%減少し、原単位も約29%低下した。 |

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

| |
|--|
| |
|--|

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

| | | |
|---------------------------|------|---|
| 事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等) | 計 画 | ①温暖化ガスを含む希釈剤の大気放出抑制 [回収設備の増設と運転最適化] [定期修理時の希釈剤回収改善] [温暖化ガス蓄熱燃焼処理装置の点検停止時間削減] ②照明の改善 [照明灯更新時の低電カランプの採用] |
| | 第1年度 | ①希釈剤の排出量削減活動 [希釈剤回収設備の運転最適化] [温暖化ガス蓄熱燃焼処理装置の点検停止時間削減] [排出内訳の解析] [生産設備の安定運転化] ②照明の改善 [現行の照明灯更新時にLED灯を採用] ③コンベアの個別起動 [コンベア非使用時に停止する回路の導入] ④蒸留塔の還流比変更 [蒸留塔の還流比低減によるリボイラー蒸気量の削減] |
| | 第2年度 | ①温暖化ガスを含む希釈剤の大気放出抑制 [定期修理時の希釈剤回収改善と排出抑制] [希釈剤回収設備の設置] [希釈剤回収設備の運転最適化] [ガス分析の頻度と時間の削減] ②照明の改善 [照明灯更新時のLED灯採用] ③蒸留塔の還流比低減 [蒸留塔の還流比低減によるリボイラー蒸気量の削減] ④冷却水ポンプの冬季停止 [冷却水ポンプの冬季一時停止] ⑤冷媒圧縮機の循環流量削減 [冷媒圧縮機の循環流量削減] |
| | 第3年度 | ①照明の改善 [照明灯更新時LED灯採用] ②蒸留塔還流比低減 [蒸留塔の貫流比低減によるリボイラー蒸気量削減] ③ドラムの加熱温度低下 [ドラムの加熱温度低下による蒸気量削減] 計画に掲げた措置に加え、定期修理の年である第2年度には温暖化ガスを含む希釈剤の大気放出抑制を行い、各年度を通して蒸留塔の還流比変更に伴う蒸気使用量低減等の措置を行い、二酸化炭素放出量を抑制した。 |
| 自動車等 (第3号該当者等) | 計 画 | |
| | 第1年度 | |
| | 第2年度 | |
| | 第3年度 | |

(2) 再生可能エネルギー源等の利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

事務所電力の一部(約10%)を太陽光発電設備(30KW)で賄う。
また、他に使用可能な再生可能エネルギー源が無いか検討する。

イ 計画期間の再生可能エネルギー源等の利用実績

| 設備等の種類 | 概要(規模、導入場所、性能等) | 導入年度 | 備考 |
|--------|--------------------|--------|-----|
| 太陽光発電 | 規模30KW 本社・川崎工場 事務棟 | 平成23年度 | 導入済 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

ウ 計画期間の再生可能エネルギー源等の価値の保有実績

| 種類 | 概要(規模、場所等) | 保有年度 | 備考 |
|----|------------|------|----|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

| | |
|------|----|
| 計 画 | なし |
| 第1年度 | なし |
| 第2年度 | なし |
| 第3年度 | なし |

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

| | |
|------|---|
| 計 画 | <p>①グリーン購入の推進を行う。 ②廃棄物の減量化・分別化の推進を図る。 ③工場内の緑地を維持する。 ④エコ運搬制度に基づき、運送業者にエコ運搬の実施を協力依頼する。 ⑤車輛による一部製品の輸送を鉄道輸送に切り替える事を維持する。 (製品1万トンあたり約90Tの削減。)</p> |
| 第1年度 | <p>①事務用品やOA機器のグリーン購入の推進を行なった。 ②廃棄物の減量化・分別化の推進を行なった。 ③工場内の緑地を維持した。 ④運送業者にエコ運搬実施を協力依頼した。 ⑤社外輸送する中間製品の20%をトラックから鉄道で行なった。(約120Tの削減。)</p> |
| 第2年度 | <p>①事務用品やOA機器のグリーン購入の推進を行なった。 ②廃棄物の減量化・分別化の推進を行なった。 ③工場内の緑地を維持した。 ④運送業者にエコ運搬実施を協力依頼した。 ⑤社外輸送する中間製品の20%をトラックから鉄道で行なった。(約100Tの削減。)</p> |
| 第3年度 | <p>①事務用品やOA機器のグリーン購入の推進を行なった。 ②廃棄物の減量化・分別化の推進を行なった。 ③工場内の緑地を維持した。 ④運送業者にエコ運搬実施を協力依頼した。 ⑤社外輸送する中間製品の20%をトラックから鉄道で行なった。(約100Tの削減。)</p> |

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

| | | |
|-----|---------|-------------------|
| (実) | 104,667 | t-CO ₂ |
| (調) | 104,439 | |

イ 第3号該当者等

| | | |
|-----|--|-------------------|
| (実) | | t-CO ₂ |
| (調) | | |

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

| 事業所の名称 | 事業所の所在地 | 日本標準産業分類 細分類番号 | 事業所に係る 事業の名称 | 温室効果ガス の排出の量 |
|-------------------|------------|-------------------|-----------------|---------------------------|
| 日本フイル株式会社 本社・川崎工場 | 川崎区浮島町10-3 | 1636 | 合成ゴム製造業 | 104,667 t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

| 事業所の名称 | 事業所の所在地 | 日本標準産業分類 細分類番号 | 事業所に係る 事業の名称 | 温室効果ガス の排出の量 |
|--------|---------|-------------------|-----------------|-------------------|
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

| エネルギー使用量の規模 | 事業所数 |
|--------------|------|
| 400～500kl 未満 | |
| 300～400kl 未満 | |
| 200～300kl 未満 | |
| 100～200kl 未満 | |
| 100kl 未満 | |

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

| 事業所の名称 | 事業所の所在地 | 日本標準産業分類 細分類番号 | 事業所に係る 事業の名称 | 温室効果ガス の排出の量 |
|-------------------|------------|-------------------|-----------------|---------------------------|
| 日本フイル株式会社 本社・川崎工場 | 川崎区浮島町10-3 | 1636 | 合成ゴム製造業 | 104,667 t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

| | |
|------|--|
| 事業所数 | |
|------|--|